



# 久留米市最古の木造建造物!! 4メートルを超える巨大石塔群が林立? お殿様たちが眠る有馬家墓所

## 江

戸時代、21万石という全国で20番目の石高を誇った久留米藩。元和7年（1621）に有馬豊氏が久留米城に入城してから約250年間、11代のお殿様（藩主）が治めていきました。2年ほどで早世した藩主もいれば、54年間も務めた藩主もいるなど、その治世はバラバラですが、彼らは亡くなると菩提寺の墓所に葬られました。国元の久留米には、京町の梅林寺に有馬家墓所が残されています。久留米を治めた歴代の藩主たちが眠る有馬家墓所とは、どのようなものなのでしょうか？



江南山梅林寺全景  
筑後川左岸の小高い丘の上、梅林寺境内に有馬家墓所は広がる。

## 1

### 有馬家菩提寺・梅林寺

JR久留米駅の水天宮口を北に進むと、臨済宗の古刹・江南山梅林寺に着きます。梅林寺は大名有馬家の菩提寺で、有馬豊氏が丹波福知山の領主であった時代、瑞巖寺と呼ばれていました。400年前の1621年、豊氏が久留米へ転封になった際に移され、初めは大龍寺と呼ばれていました。その後、1630年に豊



梅林寺の本堂と前面の唐門。門扉の彫刻がすばらしい。



本堂の前面には枯山水の庭園が広がる。白砂に松の緑が映え、鑑賞する者に時の流れを忘れさせる。



天保年間（1831 - 1845年）に描かれた久留米城下の絵図。筑後川沿いに梅林寺が見える。

氏の父である則頼の院号「梅林寺殿」にちなみ、梅林寺と名付けられたと言われています。久留米城の南西に広がる上・中級武士達の屋敷が配置された京隈小路の北部に位置する梅林寺は、筑後川左岸の小高い丘の上に建立されており、有事の際には久留米城南西の防衛施設として重要な位置を占めていました。

400年にわたり法灯を守ってきた梅林寺には、江戸時代中期に建てられた重厚な山門や、秀逸な彫刻が施された唐門、大正7年に復興された大規模な本堂など、その歴史を物語る建造物が建ち並びます。そして、本堂西側の石畳を進んだ小高い丘の上に、有馬家の歴代藩主や一族などが祀られた久留米藩主有馬家墓所が広がっています。

静寂な祈りの空間!?  
大名家墓所の実態とは?  
お殿様たちが眠る有馬家墓所のモノ語りにせまります!



## 2 久留米藩主有馬家墓所

久留米藩主有馬家墓所の前面は、花崗岩の切石で石垣が整然と積みられ、荘厳な雰囲気漂います。墓所を囲むように玉垣が巡らされ、正面には久留米藩主有馬家のルーツを象徴するかのように、入母屋造りの格式高い建物が建てられています。藩祖則頼と則頼室、則頼女の墓石を納めたこの梅林院霊屋は、1630年に建立された市内最古の木造建造物です。



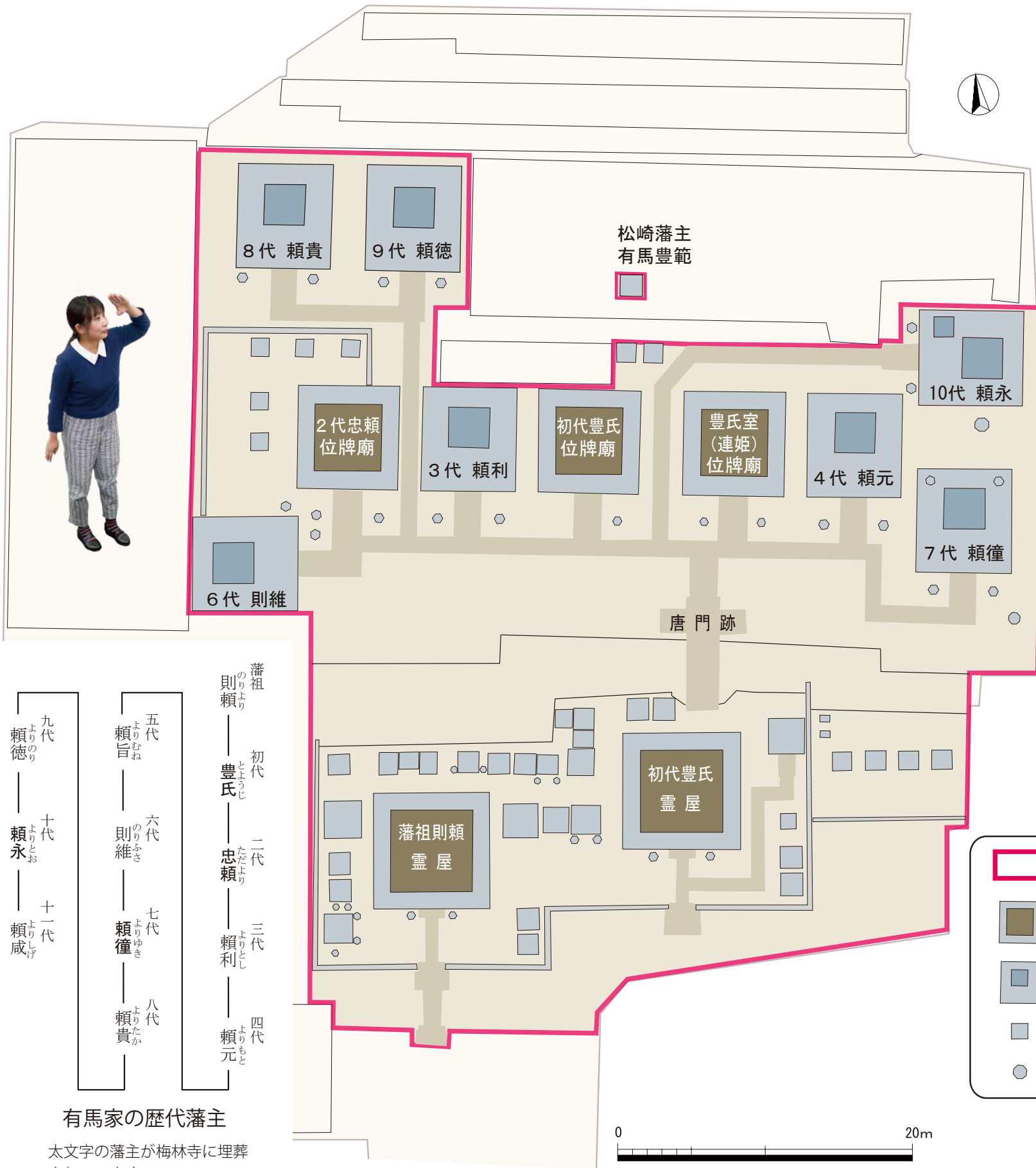
3代頼利の3層塔。頼利からは霊屋は建立されなかった。



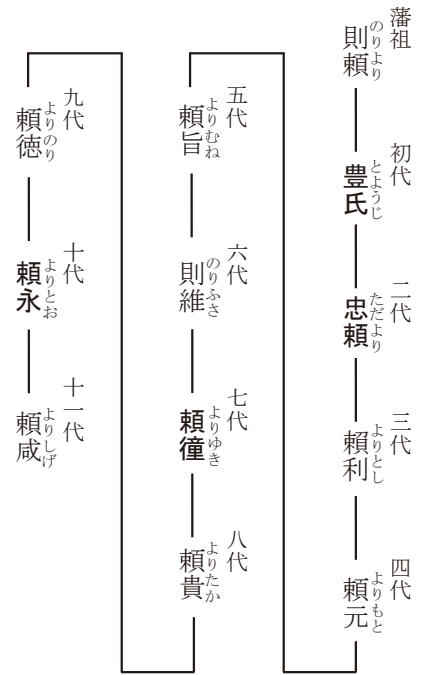
藩祖則頼などの墓石を納めた梅林寺霊屋。周りには一族の五輪塔が並んでいる。

梅林院霊屋の東側には、豊氏と豊氏室、忠頼、頼旨の墓石が納められた春林院霊屋が、その背後の石段を上った丘の上段には、豊氏、豊氏室、忠頼の位牌を納めた位牌廟が建て

られています。3代頼利以降の藩主は、霊屋に代わって4メートルを超える3層塔が建てられていき、頼旨を除く全ての藩主の3層塔が建ち並んでいます。歴代藩主は久留米で亡くなると梅林寺に、江戸で亡くなると江戸の菩提寺である祥雲寺に葬られました。梅林寺には全ての藩主の墓石や供養塔とともに、一族や殉死者の五輪塔なども数多く残されています。



- ... 国史跡「久留米藩主有馬家墓所」  
※令和2年11月20日、国の文化審議会による答申が出ました。
- ... 重要文化財「有馬家霊屋 五棟」
- ... 藩主 三層塔
- ... 一族、殉死者 石塔
- ... 石燈籠



有馬家の歴代藩主  
太文字の藩主が梅林寺に埋葬されています。

### 3 有馬家霊屋 五棟



春林院位牌廟内部。金箔や極彩色な装飾が施された宮殿は、3棟の位牌廟に納められている。



3代頼利の3層塔と春林院位牌廟。肅然とした空気が漂う。



『江南山図「霊廟図」(部分)』(梅林寺所蔵)に描かれた有馬家墓所。

歴代藩主や一族などが眠る久留米藩主有馬家墓所には、霊屋と呼ばれる木造建造物が5棟残されています。墓所が造られ始めた江戸時代前期に建造されたもので、墓所の正面にあたる丘の下段に墓石が納められた2棟の霊屋、背後にあたる丘の上段に位牌を納めた位牌廟が3棟建てられています。3代頼利からは霊屋は建てられていませんが、江戸時

代前期の霊屋が残る大名家墓所は全国的に少なく、平成30年に国の**重要文化財**に指定されました。梅林寺に伝わる『江南山図』には、5棟の霊屋や藩主の3層塔、門や石垣などが描かれています。18世紀中頃に描かれたものですが、現在もほとんど変わっていないことが窺えます。『弘化三年「手鑑」』には、「梅林寺御霊屋番」として2名が配置されていたことが記されており、日常的な管理がなされていたことが伺えます。



墓所の正面に建つ梅林院霊屋。1630年建立。格式高い重厚な霊廟建造物。

明治維新を迎え有馬家の保護がなくなると、梅林寺は荒廃していきました。しかし、それを憂慮した市内の有力商人など市民と梅林寺によって、復興が進められていきました。本堂など境内の建物とともに霊屋も修復されたようで、修理痕跡が随所に残されています。現在は梅林寺により手厚く管理されており、これからも大切に守り伝えられていくことでしょう。